

備前市事務事業評価シート

(平成20年度事業)

事業の概要		昭和46年以前		根拠法令・例規等	備前市戦没者遺族連合等補助金交付要綱	
総合計画	大項目	基本目標	02	健康でやさしさあふれるまちづくり	担当課(室)	
	中項目	基本施策	01	やさしさあふれるまちづくり		社会福祉課
	小項目	施策	03	障害者(児)福祉		
事務事業名		01	戦没者追悼事業		職・氏名 障害者福祉係長 山本光男 電話 0869-64-1824	

事業の実施		市内の戦没者遺族、傷痍軍人並びに原爆被爆者
対象(誰・何に対して)	目的(何のために)	戦没者及び遺族に対し、慰霊の意を表すため戦没者追悼式を実施する。 戦没者遺族連合会、傷痍軍人会、原爆被爆者会に対して会の運営助成を行う。
行政活動(どのような方法で)	事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	戦没者追悼式については、戦没者追悼式実行委員会(関係団体の内から市長が委嘱)を組織し、実行委員会に事業委託を行って実施する。また、戦没者遺族会、傷痍軍人会、原爆被爆者会へ補助金の交付を行う。 戦没者追悼式の参加者を増やすとともに、参加された方々に満足してもらえる式典にしたい。また、戦没者遺族連合会、傷痍軍人会、原爆被爆者会の運営が活発なものとなるようにしたい。

事業の実績					
活動	実施項目	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
	追悼式参加者数	人	410	425	280
実績	実行委員会開催回数	回	3	3	3
	遺族会補助金	円	234,000	234,000	534,000
結果指標①	傷痍軍人会補助金	円	90,000	90,000	90,000
	原爆被爆者会補助金	円	36,000	36,000	36,000
結果指標②	直接事業費	千円	3,131	2,606	1,831
	必要人員	人件費	0.75人	0.37人	0.15人
結果指標③	事業費	千円	9,506	6,019	3,286
	国県支出金	千円			
結果指標④	受益者負担比率	%			
	結果指標名	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
結果指標⑤	追悼式参加者数	説明	戦没者追悼式に参加した人数		
	結果指標	量	410	425	280
結果指標⑥	対前年比	%	-	103.7%	65.9%
	活動コスト	円	8,827,000	5,488,000	2,553,000
結果指標⑦	単位当たりコスト	円	21,529	12,913	9,118
	実行委員会開催回数	説明	戦没者追悼式実行委員会を開催した回数		
結果指標⑧	結果指標	回	3	3	3
	対前年比	%	-	100.0%	100.0%
結果指標⑨	活動コスト	円	1,913,000	1,024,000	437,000
	単位当たりコスト	円	637,667	341,333	145,667

事業の成果					
成果指標名	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	到達目標値
		目標値(A)			350
追悼式参加者数	実績値(B)	410	425	280	到達目標年度
	達成率(B/A)	#DIV/0!	#DIV/0!	80.0%	22年度
成果指標設定の考え方・式や説明					
戦没者追悼式の参加を増やしたい					

事務事業の評価		妥当性評価<A~E>		B
妥当性の評価	市の関与の妥当性	判定理由・課題認識		
		戦没者遺族、傷痍軍人及び原爆被爆者を対象とした事業であり、目的、内容は妥当である。		
市民ニーズ	市民ニーズ	市民・団体等から要望・要請が強い		
	説明			
効率性の評価	コスト	効率性評価<A~E>		
		判定理由・課題認識		
有効性の評価	目的達成度	有効性評価<A~E>		
		判定理由・課題認識		
市民参画度	市民参画度	事業の必要性は感じるが、年々該当者等が減少しており、目標値の達成が難しい状況である。		

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

平成21年度の状況						
目標値	結果指標量①	300	結果指標量②	3	成果指標量	300
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
説明	傷痍軍人会が平成20年度で解散したため、当該団体への補助事業は廃止し、その他の事業は継続する。					

総合評価		評価区分<A~E>	C
戦没者追悼式については、毎年内容の見直しをしながら実施している。昨年まで備前・日生・吉永の3地区で行っていたが、平成20年度については1箇所(備前地区)で行うこととし、経費の削減を図ることができたが、参加者数は大幅に減少した。			

平成22年度以降の方向性・内容							
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
説明	運営方法等についてさらに検討し、参加者増・経費削減を図りたい。						
改善がある場合	評価の視点	改善内容		改善時期	改善により期待される効果		
	効率性	送迎バスの運行見直し		22年度	送迎バスの台数減により、経費削減となる。		